

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は7月29-30日に開催したFOMC(連邦公開市場委員会)において、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を5会合連続で4.25-4.50%に据え置くことを決定しました。なお、今回の採決を巡っては、ボウマン副議長とウォラー理事が0.25%の利下げを主張して反対しました。

FOMC後に発表された声明文では、景気判断に関して「堅調なペースで拡大を続けている」から「経済活動の伸びは今年前半に緩やかになった」に下方修正されました。また、経済見通しについては「不確実性は低下したが依然として高い」から「不確実性は依然として高い」に変更されました。

パウエル議長はFOMC後の記者会見で、「労働市場に下向きのリスクがある」としたうえで、「個人消費の減速が始まった可能性がある」と発言し、景気および労働市場の悪化への一定の警戒を示しました。もっとも、物価動向に関しては「インフレの方が雇用よりも目標から遠い」と言及したほか、金融政策運営については「政策は抑制的とすべき」との認識を示しました。9月のFOMCについては「何も決定していない」と柔軟性を確保しつつも、利下げ期待を高める姿勢はみられず、利下げに対する慎重姿勢が維持されました。

市場の反応(米国市場)

NYダウは、パウエル議長が利下げに対する慎重姿勢を維持したことを受けて、前日比171.71ドル安の44,461.28ドルで終わりました。米国10年国債利回りは、利下げ期待が後退したことから、前日比+0.05%の4.37%となりました。外国為替市場では、日米金利差の拡大が意識され、ドル円は149円台半ばまで円安・ドル高が進行しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2024/7/31~2025/7/30、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回示された内容は、9月利下げの可能性を大幅に低下させるものではなかったと評価しています。もっとも、前回6月のドットチャート(政策金利見通し)で示された年内の利下げ見通し2回が既定路線ではなく、9月会合で新たに示されるドットチャートにおいて、年内1回利下げへと見通しを修正することも視野に入れた柔軟性を持たせた内容であったと見ています。

パウエル議長は労働市場を評価するための最重要指標として雇用の伸びではなく失業率の上昇を挙げており、最終的な利下げ実施のためには失業率の状況を重視する可能性があります。一方で、今回の政策金利の据え置きに対して反対票を投じたウォラー理事が7月17日に述べている通り、インフレ率が目標に近づき上振れリスクも限定的であることから、労働市場が悪化するまで利下げを待つべきではないという意見も見られています。

今後、9月会合までに雇用統計と物価統計が2回ずつ発表されることから、その内容によっては市場が大きく変動する可能性があります。引き続き、雇用統計と物価統計を中心とした金融経済統計のほか、FRB高官の発言に対して注意が必要と考えています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
2025/7/30-31	日銀金融政策決定会合
2025/8/21-23	ジャクソンホール会議
2025/9/11	ECB理事会

出所:Bloomberg